




「新防災教育副読本を活用した指導事例」

<b>学校名</b> [ 北六番丁小学校 3年 ] <b>氏名</b> [ 宮城 のぞみ 教諭 ] <b>[ 小 ] 学校</b> [ 1・2・3 ] <b>年版 単元名</b> [ひなんの仕方を考えよう 他] <b>P</b> 34～41 <b>教科・領域名</b> [ 総合的な学習の時間 暮らしを見つめよう (10時間)] [ <b>時間</b> 本時45分 ]	
<b>主な学習活動</b> (実際に行った活動)	<b>指導の実際</b>
<b>【単元の目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全な避難について考え、内容を工夫して「家族防災会議」を開き、被災時の行動・避難について家族で話し合う。</li> <li>これまでの学習・人々のつながりを生かして、地域の防災マップを作成し、防災意識を高め、災害時に安全に行動する態度・能力を高める。</li> <li>一人で家にいるときに大きな地震が起きたらどのように避難するか、家族防災会議の内容や防災マップを生かして考える。</li> <li>日頃から地域の人たちとどのようにかかわっていけばよいか考える。</li> </ul>	
<b>第2時</b> <b>【目標】</b> (家族会議、共助・公助の体制) 大きな地震が起きた時の避難方法・連絡方法・日頃からの準備等について、自分たちで内容を考えて家族で話し合う。 1 地震が起きた時・日常の防災について家族で話し合っておくべきことを考える。 2 みんなで「話し合いシート」を作成して、実際に家庭で「家族防災会議」を行う計画を立てる。	<b>【防災副読本】 第4章5</b> 「家族ぼうさい会議をひらこう」 <ul style="list-style-type: none"> <li>副読本 p.38、39 を参考にして、家族と話し合う項目を考え、みんなで検討して会議用のワークシートに高めていく。</li> <li>これまでの避難訓練や総合で施設や人々について学んだことをもとにして考える。</li> <li>この授業を授業参観で行い、家族の理解をいただいた。</li> </ul>
<b>第3時～第8時 (5時間)</b> <b>【目標】</b> (体験的な活動、地域密着の教材、マップ) 地震が起きた時に、地域で安全なところや危険なところを実際に地域に出かけて調べ、成果をマップにまとめる。地域の特色を考える。 1 副読本を読み、目的を理解し、自分たちで地図に表わす記号を考え、学習計画を立てる。 2 地域に出かけて調べる。地域の方のお話を伺う。 3 マップにまとめ、地域の特色を考える。	<b>【防災副読本】 第4章2</b> 「ぼうさいマップをつくろう」  
<b>第9時【本時の目標】</b> (危険予知・回避能力、主体的行動、災害心理、自助) 地震が起きた時の心構えと、よりよい対応の仕方について考える。 1 一人で家にいるときの避難の仕方を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           一人で家にいる時に大きな地震が起きたらどうしたらよいか考えよう。         </div>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>家族防災会議のワークシートを見て、家族との話し合いを踏まえて考える。</li> </ul>

「新防災教育副読本を活用した指導事例」

主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際	
<p>2 ゆれが収まったら、どのように行動するか考える。</p> <p>3 自宅から避難する方法について、防災マップを活用しながら考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北六地区、中江地区の二つの方面別の防災マップを活用して発表し合い、友達の考えを理解して自分の行動に生かす。</li> <li>・日頃の学習や話し合い、地域の人との交流、物資の準備等の減災への取組が、災害心理をおさえて安全に命を守ることにつながることに気づかせる。</li> </ul>	<p>【防災副読本】第4章3 「ひなんの仕方を考えよう」</p> <p>第4章4 「自分できめる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パニックになりやすいことを押さえ、これまでの学習や準備している物を生かして落ち着いて判断・行動することを学ばせる。</li> <li>・重篤な津波体験をした児童に配慮し、「津波がくるかもしれない」という避難理由を強調せず、「家には危ない」という状況で考えさせる。</li> </ul>	
<p>【副読本を活用してみても】本単元では、第4章の2から5を活用した。総合的な学習の時間の単元で、これらの学習内容を連続して行ったことは、学びの積み上げや家庭・地域との連携も踏まえた上での児童の具体的な思考・判断を促し、主体的に行動する力の育成に効果的であった。このことが、次の「共助」の力を育成する学習に発展させることにつながると考えた。本時では、被災地からの転校生に配慮し、文章は提示せず、イラストを拡大して提示して考えさせた。</p>		
		
<p>【児童の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族ぼうさい会議のとき、「まず家の中で一番安全な場所にいる」「電話が繋がらないときは、伝言ダイヤルに電話する」「避難が必要なときは学校に避難する」「近所でそうだんする人」などを決めました。家族全員で話しました。おうちの人のしつもんですごく分かりました。</li> <li>・防災マップの地図記号を作ったとき、自分が考えた地図記号がえらばれてよかったです。わかりやすい記号にしました。</li> <li>・防災マップ作りの見学をして、いろいろな所に気づきました。意外に、道にはブロックべいが多かったです。危険なところ・安全なところを地図に書きこみました。危険なところは「ふみきり」「自動はんばいき」「川」「電柱・電線・がいとう」「かんばん」などです。「ガラスの多い建物」もあります。本当に大きな地震が来て、学校にひなんすることになったら、れいせいにしてこのようなものに気をつけて学校に行きます。連絡をのこして、避難場所で家族に会って命を守ることができればいいと思います。</li> <li>・どの道を通ったら良いか少しまよいました。たおれてきそうな物の少ない道をえらびました。</li> <li>・安全な公園・病院もあります。こうしゅう電話・トイレもあります。子ども110番の家、地域の村上さん、工藤さん、佐藤さん、ボランティアの人などいつも見守って下さる方がいらっしやるので、命を守るためにれいせいに落ち着いて行動したいです。</li> </ul>		